



令和8年度 果樹情報 第12号

(令和8年9月7日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (8月後半、果樹研究所)

平均気温は、第4半旬が25.4℃で平年より0.2℃高く、第5半旬が26.3℃で平年より1.1℃高く、第6半旬が22.6℃で平年より1.5℃低く経過しました。

この期間の降水量は53.0mmで平年比65%と平年並でした。日照時間は81.5時間で平年比87%と平年より少なくなりました。

2 土壌水分 (8月31日現在、果樹研究所)

8月31日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで1.7、深さ40cmで1.5、深さ60cmで1.6となっており、過湿状態です(図1)。

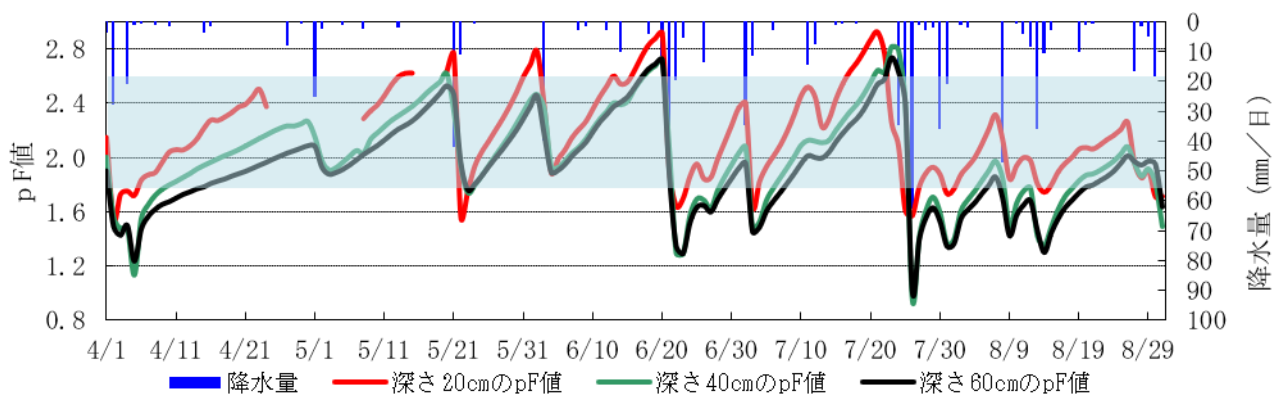


図1 土壌pF値の推移(果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)

図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8-2.6)

3 発育状況 (9月2日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 収穫状況

「川中島白桃」の収穫開始は8月10日で平年より10日早く、収穫盛期は8月16日で平年より7日早くなりました。果実の大きさは429gで平年より大きく、糖度は12.9° Brixで平年並でした(表1)。

「ゆうぞら」の収穫開始は8月17日で平年より9日早く、収穫盛期は8月19日で平年より11日早くなりました。果実の大きさは418gで平年より大きく、糖度は13.0° Brixで平年並でした(表1)。

「さくら白桃」の収穫開始は8月31日で平年より8日早くなりました(表1)。

表1 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/26	7/ 5	6/30	7/ 1	7/ 8	7/ 4	7/ 6	7/11	7/ 7	301	273	316	11.7	11.8	13.0
日川白鳳	7/ 2	7/10	7/ 3	7/ 4	7/13	7/ 6	7/ 9	7/17	7/10	288	237	251	12.2	11.3	13.3
暁 星	7/ 9	7/19	7/15	7/13	7/23	7/18	7/16	7/27	7/24	260	222	198	14.5	13.0	14.2
ふくあかり	7/13	7/20	7/18	7/19	7/25	7/24	7/22	7/29	7/28	367	274	302	14.9	13.0	15.8
あかつき	7/21	7/29	7/25	7/25	8/ 1	7/29	8/ 3	8/ 7	8/ 4	395	284	341	13.0	13.1	14.3
まどか	7/28	8/ 7	8/ 4	7/31	8/11	8/ 7	8/10	8/15	8/11	394	354	323	12.7	14.0	16.9
川中島白桃	8/10	8/20	8/21	8/16	8/23	8/27	8/21	8/27	9/ 1	429	372	364	12.9	13.4	16.5
ゆうぞら	8/17	8/26	8/19	8/19	8/30	8/22	8/24	9/ 4	8/28	418	355	377	13.0	13.0	14.4
さくら白桃	8/31	9/ 8	9/ 4	未	9/12	9/ 6	未	9/12	9/10	未	415	522	未	13.5	16.8

注) 平年は、1996～2025 年（「はつひめ」「ふくあかり」は2010～2025 年）の平均値

(2) なし

ア 収穫状況

「幸水」の収穫盛期は8月 22 日で平年より5日早くなりました。果実の大きさは 409 g で平年並、糖度は 11.6° Brix で平年よりやや低くなりました（表2）。

「豊水」の収穫開始は8月 31 日で平年より9日早くなりました。収穫始期の果実重は 437g、糖度は 12.0° Brix でした。

イ 成熟状況

満開後 135 日における「豊水」の成熟調査の結果は、果実硬度が 6.1 ポンドと平年よりやや高く、糖度が 11.3° Brix と平年よりやや低く、果皮中クロロフィル含量が $7.3 \mu\text{g}/\text{cm}^2$ と平年より高くなっています（表3、図2、3）。果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度は、平年より低くなっています（図3）。

「あきづき」の満開後 140 日における成熟調査の結果は、果実硬度が 4.7 ポンドで平年よりやや低く、糖度が 10.7° Brix で平年より低く、果皮中クロロフィル含量は $6.8 \mu\text{g}/\text{cm}^2$ で平年より高くなっています（表4）。

「ラ・フランス」の満開後 140 日における成熟調査の結果は、果実硬度が 14.0 ポンドで平年より高く、デンプン指数は 5.0 と平年並で、糖度は 11.6° Brix で平年並でした（表5、図4、5）。

表2 なしの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸 水	8/13	8/22	8/18	8/22	8/27	8/23	8/26	9/ 1	8/28	409	393	353	11.6	12.4	13.1
豊 水	8/31	9/ 9	9/ 4	未	9/15	9/12	未	9/21	9/16	<u>437</u>	439	482	<u>12.0</u>	12.9	13.9
二十世紀	未	9/15	9/11	未	9/18	9/13	未	9/22	9/29	未	418	366	未	11.0	11.8
あきづき	未	9/24	9/17	未	9/27	9/26	未	10/2	9/16	未	477	528	未	12.9	13.5
ラ・フランス	未	10/3	10/2	未	10/3	10/2	未	10/5	10/2	未	314	370	未	13.0	14.8

注1) 平年値は、1996～2025 年の平均。未は未確定。

注2) 下線部は収穫開始時の果実品質。

表3 なし「豊水」の成熟経過

生育日数	硬度(lbs.)			地色			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
135	6.1	5.7	6.6	2.3	2.6	2.2	11.3	12.1	13.1
生育日数	果皮中クロロフィル含量 ($\mu\text{g}/\text{cm}^2$)			リンゴ酸含量(mg/100ml)			蜜入り		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
135	7.3	5.8	7.2	0.12	0.14	0.11	2.8	1.7	2.1

注) 平年値は、1996～2025年の平均。

- 蜜入り指数 1 : 果実の切断面全体が白っぽく水浸状がほとんど気にならないもの
 2 : 果皮直下の部分がわずかに水浸状を示しているように見えるもの
 3 : 水浸状を示している部分が広く、果皮直下では水浸状部の境界が比較的是っきりしているもの
 4 : 果実切断面の大部分が比較的是っきりした水浸状を示しているもの

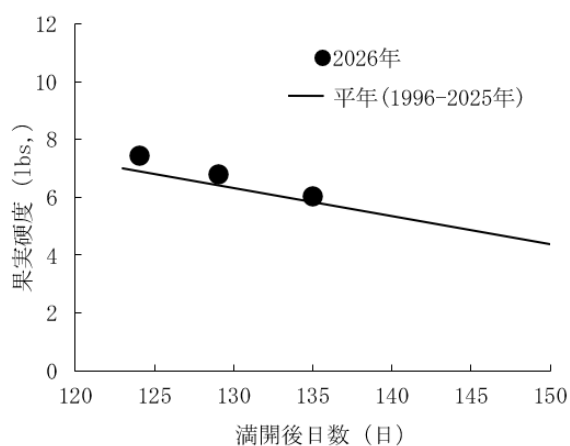


図2 「豊水」の果実硬度の推移

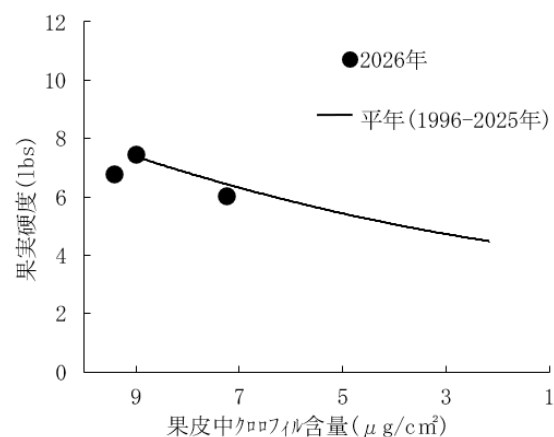


図3 「豊水」の果皮中クロロフィル含量と硬度の推移

表4 「あきづき」の成熟経過

生育日数	硬度(lbs.)			地色			糖度(° Brix)			果皮中クロロフィル含量 ($\mu\text{g}/\text{cm}^2$)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
140	4.7	5.1	6.5	2.5	2.6	2.6	10.7	11.9	12.2	6.8	5.6	5.7
生育日数	リンゴ酸含量 (mg/100ml)											
	本年	平年	昨年									
140	0.07	0.10	0.09									

注) 平年値は 2007～2025 年の平均値。

表5 「ラ・フランス」の成熟経過

満開後日数	硬度(lbs.)		地色		デンプン指数		糖度(° Brix)		リンゴ酸含量 (mg/100ml)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
140	14.0	12.6	2.1	2.5	5.0	4.8	11.6	11.7	0.26	0.27

注1) 平年値は、1996～2025年の平均値。

注2) 西洋ナシのデンプン指数：染色が濃いほど未熟。

- 指数 1 : 10%以下染色、指数 2 : 30%程度染色、指数 3 : 50%程度染色、
 指数 4 : 80%程度染色、指数 5 : 100%染色

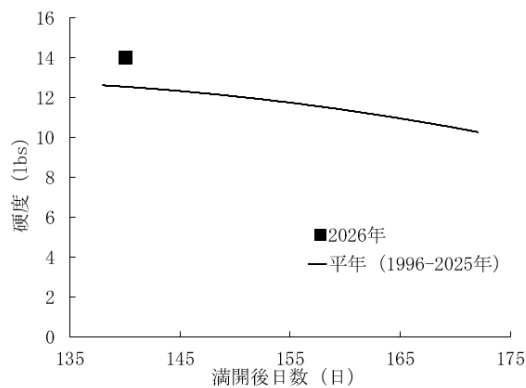


図4 「ラ・フランス」の果実硬度の推移

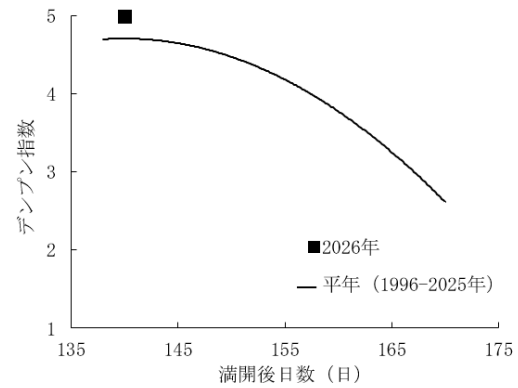


図5 「ラ・フランス」のデンプン指数の推移

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が 76.6mm (平年比 106%)、横径が 83.5mm (平年比 105%) で平年よりやや大きい状況です。満開後日数で比較すると平年並です。

イ 「つがる」の収穫状況

「つがる」の収穫開始日は8月24日で平年より2日早く、収穫盛期は8月28日で平年より2日早く、収穫終期は8月31日で平年より4日早くなりました。

果実の大きさは 326 g と平年より大きく、糖度は 12.1° Brix と平年よりやや低く、硬度は 11.7 ポンドと平年並でした (表6)。

表6 りんご「つがる」の収穫期と果実品質

収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			成熟日数		
本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
8/24	8/26	8/22	8/28	8/30	8/25	8/31	9/4	8/29	130	123	122

果実重(g)			糖度 (° Brix)			リンゴ酸(g/100ml)			硬度(lbs.)		
本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
326	284	265	12.1	13.0	13.6	0.25	0.24	0.26	11.7	12.0	13.8

注) 平年値は、1996～2025年の平均

成熟日数は、満開日から収穫盛までの日数

(4) ぶどう

ア 成熟状況

8月21日(満開81日後)の「巨峰」の成熟状況は、果皮色が8.0、糖度が15.6° Brix、酒石酸含量が0.77g/100ml、糖酸比が20.2で、満開後日数で比較すると平年より糖度が低く、酒石酸含量は平年より高い状況です(図6～9)。

8月25日(満開82日)における「シャインマスカット」の成熟状況は、糖度が13.1° Brix、酒石酸含量が0.67g/100ml、糖酸比が19.4となっています(表7)。

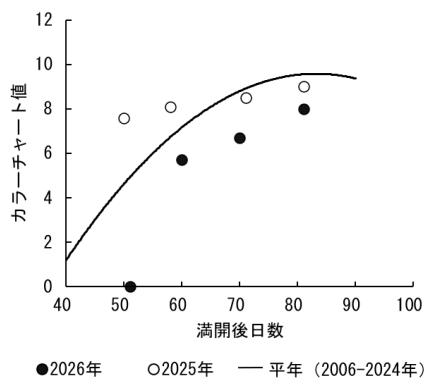


図6 「巨峰」の果皮色の推移

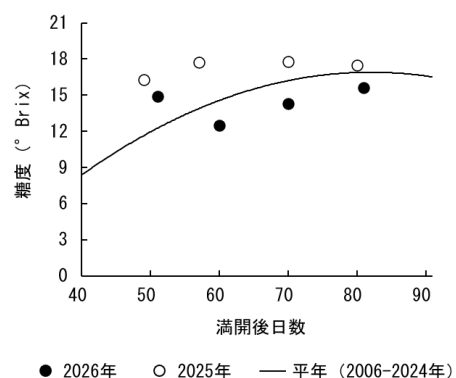


図7 「巨峰」の糖度の推移

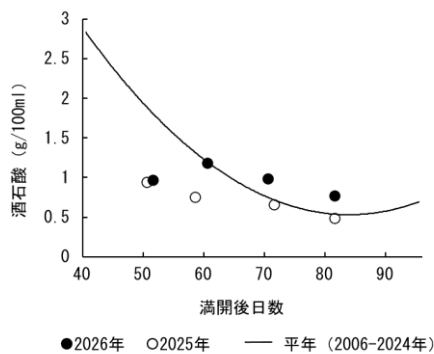


図8 「巨峰」の酒石酸含量の推移

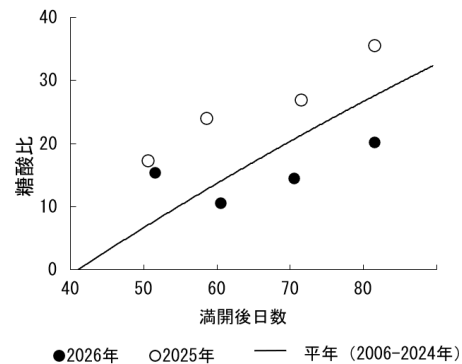


図9 「巨峰」の糖酸比の推移

表7 ぶどう「シャインマスカット」の成熟経過

調査日	満開後 日数	果房重 (g)	1粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酒石酸 (g/100ml)	糖酸比
8/25	82	608.6	12.8	13.1	0.67	19.4

4 栽培上の留意点

(1) もも

ア 秋肥の施用

収穫後、9月のできるだけ早い時期に秋肥を施用し、樹勢の回復と貯蔵養分の蓄積に努めましょう。秋肥は尿素を中心に速効性肥料を使用し、窒素成分で7 kg/10a 程度（「あかつき」：中肥沃度地帯の場合）を施用しましょう。

また、樹勢が旺盛で、新梢の二次伸長が著しい樹には、施用を控えましょう。

表8 ももの施肥基準

地帯 区分	品 種	目標収量 (kg/10a)	施肥量 (kg/10a)					
			N				P ₂ O ₅	K ₂ O
			秋肥	冬肥	春肥	追肥	冬肥	
肥沃度 中	日川白鳳・暁星	2,400	5	5	2	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5～7	2	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6～8	2	—	10	12
肥沃度 高	日川白鳳・暁星	2,400	5	5	—	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5	—	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6	—	—	10	12
流亡 程度大	日川白鳳・暁星	2,400	5	—	4	2	10	12
	あかつき	2,600	7	—	4	2	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	—	4	2	10	12
腐植質 火山灰土	日川白鳳・暁星	2,400	7	5	—	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5	—	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6	—	—	10	12

注) 土壌表面は部分草生、秋肥は9月、冬肥は11～12月、春肥は2～3月、追肥は6月に実施

イ 秋季せん定

現在、新梢の二次伸長が見られています。若木や強勢樹で新梢の二次伸長が見られる場合には、樹勢に応じたせん定を行いましょう。

樹勢が強く徒長枝の発生が多い強勢樹では、9月中旬頃（徒長枝が太る前）を目途に収穫が終了した品種から秋季せん定を実施し、花芽の充実と樹勢の安定化、秋期防除における薬液透過の改善を図りましょう。

適勢樹では、主枝や垂主枝の生育を妨げる徒長枝を整理し、樹勢の乱れを防ぎましょう。

弱勢樹では、秋季せん定を実施しないか最小限とし、葉芽の多い中果枝や長果枝を多く配置することで、樹勢の回復を図りましょう。また、若木では適勢樹と同様の方法で行いましょう。

特に、幼木から若木では冬季せん定が強せん定になると寒凍害を引き起こしやすいため、夏季の新梢管理で残した主幹部の強勢な枝は秋季せん定時に整理し、冬季に大きな切り口を作らないように注意しましょう。

また、モモせん孔細菌病の罹病葉が多く見られる場合には、樹勢を乱さない範囲で枝をせん除し、菌密度の低減を図ることも効果的です。その際には、秋期防除実施前に秋季せん定を行い、薬液の到達を妨げる枝は除去するなど、防除効果を高めるよう工夫しましょう。

(2) なし

ア 「豊水」収穫の留意点

「豊水」では果そう葉の多い果実、側枝基部の果実は成熟が遅れ、着果位置では樹冠の外周部から成熟が進む傾向にあります。そのため、収穫は枝先の太玉果から始め、次第に主幹に近いところへ移るようにしましょう。主幹に近い部位で日当たりの悪い果実は、地色に青みが残る割には熟度が進んでいることがあるため、採り遅れのないように注意しましょう。

「豊水」の品種特性として、果実の成熟速度は遅いものの、同一樹内の果実の成熟差は小さいため、1～2日おきに数回に分けて収穫を進めましょう。

本年は果肉先熟の傾向があり、みつ入り指数が平年より高い状況であるため、食味や品質をよく確認し、収穫が遅れないよう注意する。

イ 施肥

「幸水」の収穫終了後、樹勢を見ながら9月中を目途に礼肥として尿素を中心に速効性の窒素肥料を窒素成分で4～5kg/10a施用しましょう。その他の品種（「豊水」「二十世紀」等）でも収穫が半分以上過ぎれば果実品質への影響は小さいと考えられるため、収穫後できる限り早く礼肥を施用しましょう。

ウ 落果防止剤の散布

「二十世紀」等落果防止剤処理が必要な品種は、薬剤の使用時期と他の中晩生品種への飛散防止等に十分注意して散布しましょう。

(3) りんご

ア 中生種の収穫前管理と収穫

摘葉や玉回し等の着色管理は、各品種の生育状況に合わせて遅れないように実施しましょう。摘葉は、気温の高い日が続く場合は日焼け果の発生が懸念されるため、始めは果実に直接触れている葉を中心に軽く行い、その後は気温の状況に応じて程度を強めて実施しましょう。

落果防止剤は、収穫開始予定日などの農薬使用基準に十分注意して使用しましょう。

イ 「ふじ」の栽培管理

反射シートの敷設や摘葉等の収穫前管理は遅れないように実施しましょう。

「ふじ」の摘葉を9月下旬頃から実施する場合は、1回目は果実と接触している葉を中心に数枚程度を摘葉し、その後は10月中旬に玉回しと合わせて行いましょう。

(4) ぶどう

ア 収穫における留意点

(ア) 「シャインマスカット」の収穫

近年、栽培面積が増加している「シャインマスカット」は、「巨峰」等の紫黒色系の品種と異なり、果皮色による収穫期の判断が難しい傾向にあります。日当たりが良い場所は果皮が黄化しやすく、有色袋を使用している場合は緑色気味で仕上がります。収穫前に食味を確認した上で適期収穫を心がけましょう。

(イ) 収穫時の留意点

a 雨の日やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪い傾向にあります。収穫前の2～3日が晴天で、当日も晴れている日に収穫するように心がけましょう。

b 収穫は、日持ちを向上させる目的で果実温度の低い早朝などに行いましょう。

c 主枝の先端や日当たりが良く登熟が進んだ枝の果実は成熟が早いいため、優先して収穫しましょう。

- d 果粉を落とさないため、収穫果実は穂軸を持ち、果粒に直接触らないように注意しましょう。

(5) 共通

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り・マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます)。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

5 病虫害防除上の留意点

大気的不安定な状態が続いています。また、向こう1か月(8/29～9/28)の降水量は平年より多い確率が40%となっています(仙台管区気象台令和8年8月27日付け1か月予報)。急な雷雨に備えて気象情報に留意し、防除タイミングを逃さないようにしましょう。

(1) 病害

ア リング褐斑病

8月中下旬における褐斑病の発生は場割合は、一部地域で平年よりやや多くなっています(令和8年8月31日付け病虫害発生予察情報・発生予報第8号)。本病の発生が多い状況で、8月下旬頃にユニックス顆粒水和剤47を2,000倍で使用していない場合は、晩生品種を対象に本剤の特別散布を実施し、さらに9月上旬頃にオーソサイド水和剤80を600倍またはストライド顆粒水和剤を1,500倍で使用しましょう。なお、薬剤の総使用回数と収穫前日数に十分注意しましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。

イ モモせん孔細菌病

8月上旬の新梢葉での発生は場割合は平年よりやや少なかったものの、8月中下旬における割合は平年並と増加しています(令和8年8月31日付け病虫害防除情報)。今後の降雨により、新梢葉や果実での発生が増加するおそれがあります。また、本病は秋期に降水量が多いと翌春に春型枝病斑の発生が多くなる傾向にあるため、収穫が終了した園では降雨前の秋期防除を徹底し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

秋期防除薬剤は4-12式ボルドー液、またはICボルドー412を30倍で使用し、9月上旬～10月上旬に2週間間隔で3回散布しましょう。なお、9月中旬以降に使用する場合、これらの剤にかえてクレフノンを100倍で加用してコサイド3000を2,000倍で、またはクレフノンを100倍で加用してムッシュボルドーDFを500倍で使用することもできます。ただし、コサイド3000及びムッシュボルドーDFは、高温時に使用すると落葉等の薬害を生じることがあるので十分に注意しましょう。

ウ ナシ黒星病

本病の発生が多い園地では、「幸水」収穫後にトリフミン水和剤3,000倍、またはフルーツセイバー3,000倍を使用しましょう。薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤の使用回数に十分注意しましょう。なお、発生が少ない園地では今回の防除を省略することが可能です(参考:令和4年度普及に移しうる成果(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566356.pdf>))。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

9月1日現在で、第6世代の防除適期は8月6半旬ごろと推定されました。また、第6世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、9月3半旬ごろと予測され、第7世代幼虫の防除適期は9月4半旬と推定されます(表9)。

園地の状況を確認し、密度が高い園では越冬密度を低下させるために収穫後であっても防除を実施しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

今後の気温が平年よりも2℃高く推移した場合、第5世代幼虫の防除適期は、9月3半旬ごろと推定されます（表9）。

近年、本種の第5世代によるナシの中・晩生品種の被害が散見されることから、「幸水」の果実被害が目立つ園地では、中・晩生品種を対象に防除を実施しましょう。また、被害拡大を防ぐため、シンクイムシ類の被害果実は、水づけ等により適切に処分しましょう。

ウ カイガラムシ類

今後の気温が平年よりも2℃高く推移した場合、ナシマルカイガラムシ第3世代のふ化開始は9月3半旬ごろと予測され、ふ化盛期は9月5半旬ごろと推定されます（表9）。

カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意し、発生状況に応じて防除を行いましょう。越冬虫の誘殺を目的としたバンド処理は、9月中旬頃までに行いましょう。

エ カメムシ類

病害虫防除所の調査における果実被害の発生ほ場割合は、一部地域において平年より高い状況でした（令和8年8月31日付け病害虫発生予察情報・発生予報第8号）。飛来状況をよく観察し、多数の飛来がみられる場合には速やかに防除を行いましょう。

オ ハダニ類

なしでは県内全域で、りんごでは一部地域でハダニ類の発生ほ場割合は平年よりも高い傾向にあります（令和8年8月31日付け病害虫発生予察情報・発生予報第8号）。

高温期は増殖が速いので、ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

表9 果樹研究所における防除時期の推定（令和8年9月1日現在）

モモハモグリガ				
今後の気温予測	第5世代 誘殺盛期	第6世代 防除適期	第6世代 誘殺盛期	第7世代 防除適期
2℃高い	8月26日	8月31日	9月15日	9月19日
平年並	8月26日	8月31日	9月17日	9月22日
2℃低い	8月26日	8月31日	9月20日	9月27日
起算日：モモハモグリガ 第4世代誘殺盛期 8月6日（予測値）（演算方法は三角法）				
ナシヒメシンクイ				
今後の気温予測	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期	ナシマルカイガラムシ 第3世代 ふ化開始	第3世代 ふ化盛期
2℃高い	9月7日	9月14日	9月11日	9月24日
平年並	9月8日	9月16日	9月13日	9月30日
2℃低い	9月9日	9月20日	9月15日	10月3日
起算日：ナシヒメシンクイ 第3世代誘殺盛期 8月11日（予測値） ナシマルカイガラムシ 3月1日（演算方法は三角法）				

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

福島県農薬危害防止運動を実施中

■農薬使用基準の遵守 ■農薬飛散防止対策の徹底 ■住宅地等における農薬適正使用の推進
実施期間：6月10日から9月10日まで。農薬による事故等の未然防止に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>